

霧多布港 本港地区 小型船だまり整備事業
【便益算定根拠】

○滞船コストの削減

小型船対応係留施設の整備に伴う小型船の滞船コスト削減額を算出する。本整備事業の実施により、127百万円/年の小型船の滞船コストの削減が可能となる。

〔滞船コストの削減〕→①+② 127百万円/年

・陸揚時の滞船コスト削減便益(①)→ 35百万円/年

【陸揚時の滞船コスト】

項 目	with時	without時
a: 対象隻数(隻/年)	100	100
b: 年間出漁回数(回/隻)	300	300
c: 1回あたり滞船時間(時/回)	0.8	1.0
d: 年間滞船時間(時・隻/年) $a*b*c$	22,580	31,395
e: 漁船運航費(円/隻・時)	4,000	4,000
f: 滞船費用(千円/年) $d*e$	90,320	125,580
滞船コスト削減便益(準備)(計) (百万円/年)		35

①

・準備時の滞船コスト削減便益(②)→ 92百万円/年

【準備時の滞船コスト】

項 目	with時	without時
a: 対象隻数(隻/年)	100	100
b: 年間出漁回数(回/隻)	300	300
c: 1回あたり滞船時間(時/回)	0.4	1.2
d: 年間滞船時間(時・隻/年) $a*b*c$	13,453	36,503
e: 漁船運航費(円/隻・時)	4,000	4,000
f: 滞船費用(千円/年) $d*e$	53,812	146,012
滞船コスト削減便益(陸揚)(計) (百万円/年)		92

②

○多そう係留コストの削減

小型船対応係留施設の整備に伴う小型船の多そう係留コスト削減額を算出する。本整備事業の実施により、21百万円/年の小型船の多そう係留コストの削減が可能となる。

〔多そう係留コストの削減〕→① 21 百万円/年

・多そう係留コスト削減便益(①)→ 21 百万円/年

【多そう係留コスト】

項目	with時	without時
a: 対象隻数(隻/年)	100	100
b: 年間休憩回数(回/隻)	300	300
c: 年間多そう係留作業回数(回/年) a*b	7,875	14,075
d: 多そう係留作業時間(時/回・隻)	0.8	0.8
e: 漁船運航費(円/隻・時)	4,000	4,000
f: 多そう係留費用(千円/年) c*d*e	26,145	46,729
多そう係留コスト削減便益(計) (百万円/年)		21

③

※端数処理のため、各項目の金額の和は、必ずしも合計とはならない場合がある。

○泊地の維持浚渫費の削減

防砂堤の整備に伴う泊地の埋没による維持浚渫費用の削減額を算出する。本整備事業の実施により、32百万円/年の泊地の維持浚渫費の削減が可能となる。

〔航路・泊地の維持浚渫費削減便益〕→ 38 百万円/年

・維持浚渫費用削減便益(①+②)→ 38 百万円/年

【維持浚渫費用 区域名:水域2】

項目	With時	Without時
a: 対象面積(m ²)	27,300	27,300
b: 供用期間中の浚渫回数(回)	0	16
c: 1回当たりの浚渫土量(m ³)	0	14,469
d: 1回当たりの浚渫費(千円/回)	0	57,681
e: 供用期間当たりの浚渫費(千円/50年)(b×d)	0	922,896
f: 年間当たりの浚渫費(百万円/年)(e÷50)	0	18.46
維持浚渫費用削減便益(計) (百万円/年)		18.50

①

【維持浚渫費用 区域名:泊地(-3.0m)-2】

項目	With時	Without時
a: 対象面積(m ²)	28,300	28,300
b: 供用期間中の浚渫回数(回)	0	16
c: 1回当たりの浚渫土量(m ³)	0	14,999
d: 1回当たりの浚渫費(千円/回)	0	59,724
e: 供用期間当たりの浚渫費(千円/50年)(b×d)	0	955,584
f: 年間当たりの浚渫費(百万円/年)(e÷50)	0	19.11
維持浚渫費用削減便益(計) (百万円/年)		19.10

②